

東海体育学会第66回大会のご案内

実行委員長 榊 直樹(愛知東邦大学)

このたび東海体育学会の第66回大会を、愛知東邦大学で開かせて頂くこととなりました。会員の皆さまのご来会を、お待ち申し上げます。本学園は95年前の大正12年に設立した東邦商業学校(現東邦高等学校の前身)が創始であります。「知・徳・体」を偏りなく育むため、スポーツによって身体と精神力を鍛えるよう、生徒全員の加入を勧めたそうであります。甲子園で通算優勝4回、準優勝3回の歴史を紡ぐ硬式野球部もこの方針の下で誕生しました。

本学は創設して17年余ですが、学園の伝統を発展させて、心身の健康を幅広い分野から学ぶ人間健康学部を有するほか、経営学部にはスポーツを経営学の視点から捉える「スポーツマネジメント」コースも設けて、人材を育てております。スポーツを通じた

健康づくりは、地域社会が健全に持続する上で不可欠な要素と考えてきたからです。そうした意味において、今般学会でシンポジウムのテーマに「東京オリンピックから地域スポーツへの転換」を据えたことは、大変時宜を得ており、本学にとっても意義ある機会と受け止める次第です。世界一の長寿国でありながら、健康寿命で他国に劣る我が国にとって、「人生100年時代」をいかに健康に生き続けるか否か——それは個々の人生や暮らしぶりに留まらず、地域ひいては国全体にとって最も重い課題であります。壮年あるいは老齢となってから「健康」と向き合うのではなく、一生涯を通じて健やかさを保つため、誰もが身近に楽しめる「地域スポーツ」の在り方を考えることは、これからの時代に有益な「解」を提示できるのではないのでしょうか。

私たちの研究活動が社会に還元され、人材育成に資することを祈念して、ご案内と致します。

東海体育学会第66回大会 開催概要

【期 日】 2018年10月20日(土)9時30分(受付開始)～17時30分

【会 場】 愛知東邦大学(S棟、B棟) <http://www.aichi-toho.ac.jp/>

＜公共交通機関＞

●地下鉄～徒歩

名古屋市営地下鉄東山線「一社」駅下車 徒歩13分(約1Km)

●地下鉄～市バス～徒歩

名古屋市営地下鉄東山線「一社」駅下車

2番出口より市バス「引山行き」に乗車「平和が丘三丁目」下車

徒歩約3分

＜自家用車＞

駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

【参加資格】 学会員はどなたでも事前申込無しですべての企画にご参加いただけます。学会員でない方も、当日受付で『当日参加会員』の手続きをおこない、参加費1000円をお支払いいただくことで、一般発表とシンポジウムにご参加いただけます。また、シンポジウムは一般公開企画となりますので、どなたでも事前申し込み及び参加費なしで参加することができます。

【研究発表の申込方法と抄録提出の締切】

申込書・抄録提出の締切り:2018年8月17日(金曜日)必着

※研究発表申込書の作成には、学会ホームページ掲載の「一般研究発表申込書フォーマット」を利用して下さい。抄録の作成には、学会ホームページ掲載の「抄録フォーマット」を使用して下さい。申込書と抄録を期日までに大会事務局へ提出してください。詳細は「演題募集要項」をご覧ください。

【大会日程・プログラム】

10月20日(土)			
9:30～	受付(S棟1階エントランス)		
10:00～12:00	一般口頭発表(B401 教室、B402 教室)		
12:00～13:00	理事会(B303 教室)		
	昼食・休憩	ポスター掲示 (ALS)	企業展示 (ALS)
13:00～14:00	総会(B101 教室)		
14:10～16:10	シンポジウム(B101 教室)		
16:20～17:30	一般発表(ポスター)(ALS)		
17:30～	閉会の辞(ALS)	ポスター撤去	展示撤去

※大会の日程・プログラムは、一般研究発表の演題数などにより変更されることがあります。

※ALS：アクティブラーニングステーション(S 棟1階)

【シンポジウム】

テーマ :東京オリンピックから地域スポーツへの転換

1.企画趣旨

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は「東京2020アクション&レガシープラン2017」において5つの柱を定め、東京2020大会をきっかけに様々な分野で変化を起こし、それを後世に残していこうとしている。その中のひとつである「スポーツ・健康」分野では、①国民とスポーツ・健康、②アスリートとスポーツ・健康、③パラリンピックとスポーツ・健康の3つのテーマを定め、①を頂点に、②③で裾野の拡大を目指し、国民の中にスポーツを浸透させようと考えている。

本シンポジウムでは、東京2020大会のレガシーとして、①国民とスポーツ・健康に着目し、大会終了後、国民の中にあるいは地域の中で、どのようにスポーツを浸透させ、拡大することができるのか、そのために今から何を準備し、どう取り組むことができるのかを考えたい。

そこで3つの視点からポスト東京2020大会に向けて議論を行う。①行政と地域スポーツ、②プロスポーツと地域、③大学と地域スポーツである。①では、行政の考え方、地域住民が行政とどのように関われば、自らの地域スポーツを拡大できるのか、行政・住民両方の視点から提示していただく。②では、プロスポーツ組織が、どのようなミッションを持って地域と関わり、地域のスポーツに対してどのような貢献をしていこうと考えているのかを提示していただく。最後に③では、大学が教育研究機関として、地域スポーツとどのように関わることのできるのか、具体的な事例を示していただきながら、今後の大学と地域スポーツとの関わり方について教示いただく。

シンポジスト

1. 御園 慎一郎 氏(大阪大学招聘教授・地域活性学会副会長)
2. 吉池 淳 氏(ラガールデールスポーツシニアディレクター・日本支社代表)
3. 谷塚 哲氏(東洋大学法学部助教/REGISTA 有限責任事業組合行政書士)

【大会事務局】

愛知東邦大学 人間健康学部 中野匡隆研究室
住所:〒465-8515 愛知県名古屋市名東区平和ヶ丘3-11
電話:052-782-1826(研究室直通)
電子メール:nakano.masataka@aichi-toho.ac.jp
学会ホームページ:<http://www.tspe.jp/>
東海体育学会ホームページ <http://www.tspe.jp/>